

「書く基礎体力」をつけましょう。

「話すこと と 書くことはどちらが難しいですか。」

そう問われたら、みなさんはどう答えますか。

「書くことの方が難しい。」

と、答える人が多いだろうと思います。

それは、朝起きてから夜寝るまで、文章や単語を書かない日はあっても、誰ともお話ししない人はいないと思うからです。

このことは、話す方がやりやすい。つまり、簡単だと思っ

「今日の学習は作文です。」

と子どもたちに言えば、おそらく次の言葉が返ってくると予想できます。

「えーっ！いやだ。」（「えーっ！書きたくない。」）

「書くことなーい。」

「めんどくさい。」

同じ日本語を使っているのですから、話したり、書いたりと同じように好きになればいいのになと思うのですが。

私は現在立ったり、歩いたりすることに困難さを感じる時があります。これは体を維持する足腰の筋力が弱っているからです。そこでストレッチ運動や全身運動のトレーニングを少しずつ続けて、弱った筋力を取り戻そうと現在努力しているところです。

書くことに難しさを感じるということは「書く基礎体力」が落ちてきていることを表しています。その回復の手立てには次の二つが有効ではないかと、先日 WITH の目にいしばし学園の先生方にお話ししました。

一つ目は「視写」(ししゃ) についてです。ノートに教科書の文章を正しく書き写すことです。句読点、「 」、— (ダッシュ) などの記号も全部です。制限時間は 10 分間。

二つ目は短作文を定期的書き続けること です。100 字作文、200 字意見文など、学校で学んだ方法を実際を使ってみるのが大切です。制限時間は 10 分～15 分。

どちらも時間が来たら終わります。下書き段階では消しゴムはほぼ使いません。間違えは abede のように線で消します。

初めは戸惑うかもしれませんが、慣れてくれば楽に書けるようになります。「書く基礎体力」がついてくるからです。意志の強い人は一人でできるかもしれませんが、しかし、しんどいことは避けたいと考えるのが人間です。その弱い心に打ち勝つためには、友だちや家族の皆さんに協力してもらったり、先生にノートを見てもらったりして一人で取り組まないこと。それが長く続けられる秘訣です。

まずは 1 週間、「書く」基礎体力づくりのトレーニングにチャレンジしてみませんか。

(学校日より 11 月号から)